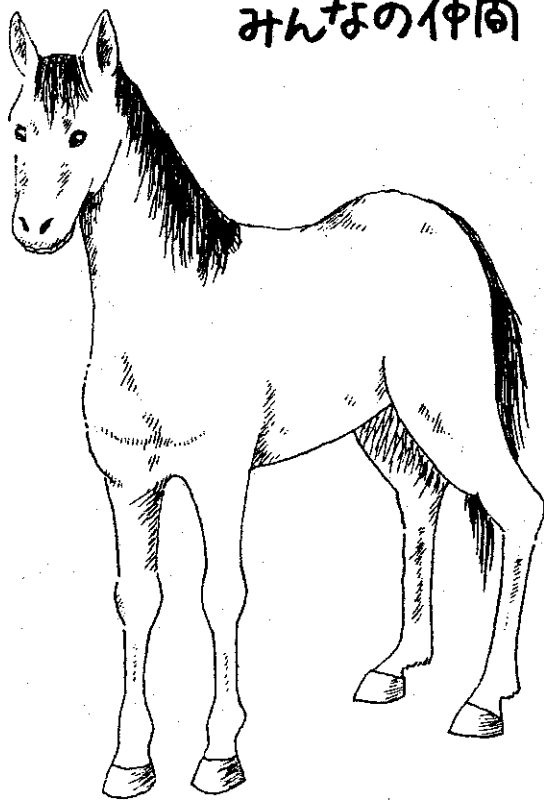


みんなの仲間 ミルフィーユの話



- サラブレッド
 - メス
 - 15歳
 - 四国生まれ
 - 名前：ミルフィーユ
(通称“ミル”)
- 子供たちの人気者
No.1

子供たちの会話の中に、しばしばでてくる馬「ミルフィーユ」のこと。(通称“ミル”
15才のサラブレッド。)

馬の散歩が楽しかった、とか草のボール(ハイキューブといって乾草を固めてある。)を食べてくれたのが楽しかった、とか。ミルとの出会いは、彼らにとって、印象的であるようです。

ミルは、私が村に通う中で、不思議と縁あって、井さんちの牧場にやってきました。長く競技の馬として乗られていたのですが、若い馬が次々と入ってくるし、腰が弱くなったこともあって、やむなく肉に出されようとしていたのです。このことがきっかけで知ったのですが、1年間に用途変更の名目で処分される馬の数が約1万頭だとか……。それも10才にもならない若い馬がほとんど。(これは競馬の馬だけの数です。)その関係者の言うことには、仕方ないことだ、事情があるから、ということですが、これも何か今の日本のあり方を反映しているような……。全てのものがお金に換算されてしまうこの国の生み出した、ひとつの悲しい結果であるような気がします。

私たちにできたのは、少なくともこの“ミルフィーユ”の余生を見守っていきとうと引きとったことでした。今、もしかしたら存在しなかったかもしれない命がこうして子供たちに、いろんな形で何かを伝えていて、みんなの心を落かしてくれている事実……。動物や自然は、かけがえのない贈りものを私たちの心に届けてくれます。